

## 令和3年度図書館協議会 議事録

日時 : 令和3年11月24日(水) 午後2時～3時45分

会場 : 図書館3階セミナールーム

出席者: <委員>

平井 丈夫会長(市ふるさとづくり推進連絡協議会会長、富山市社会教育委員)

高野 知代会長代理(富山市立図書館よみきかせの会 副代表)

石倉 卓子委員(富山国際大学准教授)

岩崎 潤委員(公募)

江藤 裕子委員(市PTA連絡協議会特別委員会 良書をすすめる会 顧問)

尾崎 久仁子委員(市小教研 国語科部長)

桑 一彦委員(北部中学校 校長)

野村 しのぶ委員(公募)

福澤 幸人委員(元富山県立図書館長)

松長 道代委員(声のライブラリー友の会 運営委員)

事務局: 高嶋館長、寺島副館長、清川主幹司書、山崎副主幹(調査係長)、瀬口副主幹(資料係長)、中村副主幹(管理係長)、吉岡読書推進係長、新保主査司書(司会)、大塚主査(書記)

### 議事録(要約)

< I 決算・予算の状況及び主な事業について >

(委員)

コロナ禍の中で工夫、努力したことがあれば教えていただきたい。

(事務局)

コロナ感染防止のため行事が軒並み中止せざるを得なくなった中で、昨年度は自宅で本を楽しむようホームページ上で本の紹介をしたり、「TAKE OUT BOOKS」という本の福袋を用意したりした。今年度も短時間で様々な本を手にとれるよう「五十日間世界一周」や「図書館トラベル」、「図書館ミステリーツアー」などを企画した。学級招待事業は小学校からも来てもらえなくなったが、市内の小学校2年生を中心に図書館の利用ガイドを配布するなどのPRを行った。また、講演会についても職員で勉強してオンラインで開催することができた。積極的に情報を発信するため、Twitterの運用を開始し、今後はYouTubeで動画を発信できないものかと取り組んでいるところでもある。

(委員)

たくさんアイデアのもと、事業を展開されていると感心した。大学の子ども育成学部では教育実習や保育実習などで絵本や教材をお借りしている学生も多いかと思うので、さらに積極的に利用するよう伝えていきたい。また、視覚障害者へのサービスについて、既に利用している方や希

望者には案内されているということだが、視覚障害者の中にはこのようなサービスを知らない方もいるのではないかと。とやまライトセンターと協力して何かアナウンスできたらと思う。

### <Ⅲ図書館の運営評価について>

(委員)

古くなった本など、除籍の基準について教えてほしい。また、図書館内でのWi-Fi環境のセキュリティなどについて教えてほしい。

(事務局)

本の性質ごとに資料廃棄に関する指針を定めており、それに基づいて随時行っている。古くて除籍の対象となってもまだ読み手がいるようなものについては、月に1回、200、300冊程度をリサイクル図書として1人2冊までの範囲で提供している。

Wi-Fiについては本館と駅南で利便性を重視したTOYAMAFreeWi-Fiを利用できるが、セキュリティは高くはない。図書館専用のWi-Fiについては今後の情勢を見ながら検討したい。

(委員)

コロナ禍で集客が難しい中、バックヤードツアーなど一人一人の心に届くようなイベントを心掛けているとのこと素晴らしいと思う。小学生への読書推進の中でもたくさん本を読むことも大切、また心に残る一冊を見つけるようなことも大切だと感じた。先日「本のヌード展」のイベントを新聞で初めて知り、学校でも図書館のイベントやサービスをもっと知らせていきたい。同じ学校区に分館があるなしに関わらず、図書館と連携を取っていただけたらと思う。

(委員)

図書館を運営する側として一番何が大切なのか。図書館として一番評価することは何なのか。来館者数を重視するか、児童サービス徹底なのか、いろんなものがあると思うが、私は図書貸出冊数ではないかと思う。なぜいろいろなイベントを開催して人を呼び込んでいるのか、最終的にはそれをきっかけに本を読んでほしい、借りてほしいという気持ちがベースとなっている。富山市立図書館の一日の貸出冊数は令和元年度が5,023冊、2年度が4,915冊でそれほどの差は見られないとあるが、1日100冊違えば年間ではものすごい差になる。どうすれば貸出冊数が伸びるのかということを考えて取り組んでもらいたい。

### <Ⅳ報告事項について>

(委員)

コロナ禍で閉館している間、本を予約しても本を受け取れるのが再び開館されてからだったというのが非常に残念だった。県内の他の自治体の館では外で手渡したり、中にはずっと開館されていた図書館もあった。なぜその判断をしたのか教えていただきたい。もうひとつ、コロナで学校が一斉休校になった際、学童保育施設の中で子どもたちが今まで以上に本を手に入っていた。児童

福祉施設への団体貸し出しも拡充していただきたい。

(委員)

新聞の社説でも貸し出し禁止は疑問だと掲載された。貸し出しを中止したり、外で貸し出しをしたり、時間短縮して開館を続けたり、県内の図書館でいろんな対応があった。富山市は他の自治体と違ってまん延防止等重点措置の対象地域となった。なおかつガラス美術館、富山第一銀行との複合施設であること、中心市街地に立地していることなどいろんな条件が重なる中での行政としての判断だったのではないかと思う。難しい問題ではあるが、もう少し対応できる余地がなかったのか今後検討いただきたい。それから、視覚障害者サービスについて、国立国会図書館が視覚障害者等用データ送信サービスを行っている。DAISYと共に積極的に取り入れて活用いただきたい。また、電子書籍の導入を検討されるのか伺いたい。

(事務局)

コロナ禍での対応について、やはり富山市がまん延防止等重点措置地域であり、市全体としてコロナを収束したいという思いがあった。県立や他の自治体の館のように本の受け渡しの実施を検討していこうと思いつつも、25館中24館が複合施設の中にあり、本館においては1階から6階まで繋がっている施設の中の図書館エリアのみの稼働の難しさ、駅南図書館・子ども図書館においては同じフロアに飲食店があったり、未就学児が遊ぶような施設も一緒になっていたり、その他の分館等においても他の施設と一体となっており、入口で受け渡しすることが困難という事情があった。また本館においては街なかであり、人流の抑制が求められる中、人を招き入れることを控える必要があった。今後はどういった形で利用者に本を届けることができるか検討しているところである。

国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスについては当館でも登録して、当館が保有しているDAISY図書を国会図書館に提供して富山市内だけでなく全国の方に利用していただけるようにしていき、また当館で保有していないものをダウンロードして富山市の利用者に提供していきたいと準備を進めているところである。電子書籍については県内外の状況や情報を集めているところである。図書館システムにも大きく関わってくることでシステムの更新時期など導入のタイミングなども含めて検討していきたい。

< V その他(意見交換) >

(委員)

当館で子どもたちに読み聞かせをしているが、コロナ対策でおはなし会を中止したり再開したり、回数を減らしたりまた元に戻したり、細かく相談しながら対応いただいている。その中で乳幼児対象の0.1.2ポケットについてコロナ対策としての人数制限で予約制として開催しているが、コロナ禍においては今後もこのやり方でやらせていただきたい。

(事務局)

富山市立図書館よみかせの会の皆様には急な対応に承えていただいている。0.1.2ポケット

については当面この体制でやっていきたいが、またどの程度の人数が一番よいのかなど調整しながら開催していきたい。

(委員)

大学生もZoomでの授業などオンライン環境が自宅でも整ってきた。大学には毎日のように国や県から関連情報が届き、関係する教員へ配信、またそこから関連する学生へ一斉配信している。市内の大学に図書館のイベント情報など配信くだされば学生たちにも宣伝できると思う。

(委員)

素晴らしい施設なので、今後はもっと集客することをしていかないともったいない。図書館自体に駐車場がないので、近隣の店舗や有料駐車場との連携、また、南北一体化された市内電車などの公共交通との協力などもしてもらえたらと思う。また、複合施設としてガラス美術館とのコラボ企画をもっと充実させて協力して集客出来たらよいのではないかな。

(委員)

声のライブラリーで活動させていただいている。録音図書の利用者が減っているのが現状である。録音図書の存在を知らない人も多いのではないかなと思うのだが、もっと広報していくしかないのかなと思っている。現在の利用者は高齢者がほとんどだが、もっと若い人向けの本を読むなど工夫していきたいので、みなさまにも周囲に広報いただけたらと思う。

(委員)

コロナ禍だからこそできたということもある。Zoomをはじめ、オンラインでの情報発信の環境が向上した。Twitter や YouTube といった話があったが、本館に来るとよく写真を撮っている人もいたので Instagram の中で本の紹介等も交えてやってみるのもいかがかな。また、いつも職員の方が親切に対応くださり感謝している。施設も素晴らしく、観光客が富山の中で必ず来てみたい場所の一つでもあるのでどんどん発信してもらいたい。

以上